

福島県立会津支援学校

福島県会津若松市一貫町大字鶴賀字下柳原 102 番地

電話 0242-32-2242 / FAX 0242-32-6079

発行日 令和元年12月24日(第61号)

今こそ「ONE TEAM」で、ビクトリーロードを!

教頭 田中 久美子



本年9月20日に開幕した4年に1度のラグビーワールドカップは、20か国が参加し、11月2日の最終戦に至るまで日本全国で熱戦が繰り広げられました。アジア初のワールドカップでかつ日本開催と、かつてない成功と熱狂をもたらした記念大会。

日本は、ロシア、アイルランド、サモア、スコットランドと戦い次々と勝利をたぐりよせ、ベスト8に進出。南アフリカに敗戦を期したものの、その活躍と興奮は、一瞬にして日本中を一つにまとめあげました。試合のみならず、台風の影響で試合が中止される中、カナダの選手が被災地の復興支援に汗を流す姿、ノーサイドの精神を競技場の外でも実践するラグーマンの姿に胸が熱くなりました。また、柏市の子供たちの「ハカ」やウエールズ国家の大合唱、試合ごとの和太鼓や連獅子、阿波踊り等、日本ならではのおもてなしの精神は、日本人の誇りであり、まさにこの大会は、今だかつてないラグビー競技の価値を飛躍的に高めたと言えるでしょう。

さて、この方程式を特別支援教育にあてはめてみました。今まさに特別支援教育を、教育の中心に据えることの重要性が見直されています。本校でも、「地域で共に学び共に生きる教育」を推進するために、校内だけでなく、地域の幼・小・中・高への支援や研修会、進路啓発、福祉との連携等、幅広い分野で切れ目ない支援体制を整備しています。しかし社会の、特別支援教育に対する認識はまだまです。本来は、特別な支援ではなく、一人一人の児童生徒にとっての必要な支援、当たり前な支援なのです。地域社会全体が、特別支援教育を当たり前の教育と認識すること、そしてその価値を飛躍的に高めていくために、今こそ、学校・家庭・医療・福祉等が「ONE TEAM」で進んでいきたいものです。

地域支援センターあいつの取り組み

福島県の「切れ目のない支援体制整備事業」が実施され2年目となります。主に地域の幼、小、中、高等学校の教育相談や地域のニーズに合わせた支援にあたっています。今年度は、校内支援の充実にも力を入れ、児童生徒への支援について教員間で共有したり、保護者の方と相談をしたりなど活動しています。センターあいつの取り組みから、今年度実施した特別支援教育研修会と「ホッとサークル」について紹介いたします。

～特別支援教育研修会～

会津管内の幼保こども園、小学校、中学校、高等学校の教職員を対象に研修会を開催しました。幼保こども園は「早期の気づきとその対応について」、小学校は「障がいの特性に応じた対応について」、中学校・高等学校は「進路を見据えた対応について」のテーマを基に情報交換を行いました。日頃感じている課題や実践していることなどたくさんの意見が出され、有意義な時間となりました。後半は、宮城教育大学教授 植木田潤氏から「発達障がいによる二次的な問題への支援のあり方」の演題でご講演をいただき、具体例を通したお話をお聞きすることができました。今後も、会津地域の特別支援のニーズに応じた支援をさらに充実させていきたいと思っております。



～ホッとサークル～

ホッとサークルは保護者同士の子育てに関する情報交換や悩み相談の場として実施しています。1回目は学部ごとに行い、思春期における子どもへのかかわりやきょうだいのことなどについてたくさんの情報交換がされました。2回目は本校卒業生の保護者から、在学中の話、進路決定の話、卒業後の生活の話等を体験に基づいて聞くことができました。参加者から、「同じ悩みを抱えていることが分かりほっとした。」「進路についてイメージを持つことができ、有意義だった。」等のご意見をいただいております。今後も、大勢の保護者の方に参加していただければと思います。



小学部

交流及び共同学習

4年生以上の学年で今年度も神指小学校との交流学習が行われました。どの学年も活動に工夫が見られ、じっくりと触れ合えるよい機会となっていました。お互いにとって「深い学び」ができたと感じます。

居住地校交流は、18名（13校）が実施しました。それぞれの学校で自分のことをアピールしたり、ゲームを楽しんだりして思い出に残る時間を過ごしました。

修学旅行

6年生が行ってきた修学旅行、今年もとってもよい経験ができました。マリニピアのイルカショーを友達と観るなど、一生の宝物ができました。みんなで一緒に泊まった「ゆもとや」にもまた行ってみたいです。



高等部

今年度の各作業学習班の取り組みについて紹介します。陶芸班が会津工業高等学校との共同学習を計2回、陶芸製品の成形や模様を付ける活動を行いました。同世代の生徒が共通



の作業活動を通し、関わりあう楽しさを感じながら互いに理解を深めていくことができました。農芸班も地域の方々や近くの幼稚園と交流学習を行い、落花生の種まきや水やり、収穫までの活動を行いました。その中でいろいろな年代の人たちとの関わり方を

学んだり、共に助け合い協力し合うことで成就感を味わったりすることができました。サービス班では、年間を通し就労継続支援事業所A型のMARCさんの協力で、専門的な立場からのアドバイスを受けながら喫茶サービスの向上を目指した学習を実施しています。クリーン班も会津若松駅や会津自然の家などの校外清掃活動を実施していて、実際に自分たちの活動が施設利用者の役に立つことを体験しながら働く意味や意義の理解を大いに深めているところです。



中学部

会津学鳳中学校との交流及び共同学習

今年度は、1回目を会津支援学校で会津学鳳中学校2年生89名と交流学習を行いました。中学部の生徒が日頃、保健体育や体育的活動で実施しており、パラリンピックの種目にもなっている「ボッチャ」を一緒に行いました。9班に分かれて、学鳳中学校との生徒とペアになって活動しました。中学部の生徒がボッチャのやり方を学鳳中学校の生徒に教える姿が見られたり、ペアの生徒同士いかにボッチャのボールを的に近づけるか工夫したり、ミラクルショットが出たときは歓声があがり大いに盛り上がりました。2回目は、全員参加ではありませんでしたが、学鳳中へ行き交流を深めてきました。



パワー祭り実行委員会



10月19日、「つなげよう 僕らの元気2019」のテーマのもと、聴覚支援学校会津校・会津支援学校合同文化祭「パワー祭り」が実施されました。さらに、今年度本校は創立30周年を迎え、前日のパワー祭り頑張ろう会の前には記念式典も行われました。パワー祭り当日に向け児童生徒実行委員会を中心となって、夏休み前から活動の構想、ピックアートの準備と作成等を行い、学校全体の雰囲気盛り上げてくれました。実行委員会が企画したおわりのつどいでは、テーマに合わせて、会場全員でピックバルーンをつなぎ、大盛況のまま祭りのフィナーレを迎えることができました。当日は、700名近くの方々に来校いただき、児童生徒の生き生きとした表情と日頃



学習の成果を見ていただく、大変よい機会となりました。学校全体が笑顔に包まれた素晴らしい文化祭となりました。

